単元名「 中学生になった日を随筆で表現しよう 」　（第１学年　B　書くこと）

■本事例のポイント

１.「読むこと」の既習事項を踏まえ、生徒が言語活動をイメージし、見通しがもてるよう、単元をデザインした。
２.生徒が文章を比較する対象として生成AIを活用することで、新たな形の学習調整や深い学びの実現を目指した。

■単元の目標

読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方を確かめて、文章を整えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ

■単元の指導計画（５時間）

一次（１時間）

「随筆の特徴を振り返り、材料を整理し、伝えたいことを明確にする」
・既習事項やモデル文を基に、随筆の特徴を捉えるとともに、自らの日常生活や体験を振り返り、「中学生になる」とはどういうことかを価値付ける。

二次（３時間）

「『中学生になった日』という随筆を書く」
・自分の考えを伝えるために、構成や表現を工夫しながら、随筆を書く。

・随筆を他者と交流したり、生成AIの作成した文章を参考にしたりして、随筆を推敲する。

三次（１時間）

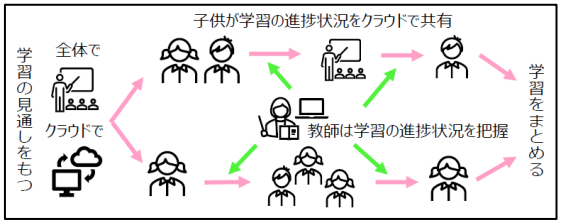
「随筆を読み合い、学習を振り返る」
・清書した随筆を読み合い、助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点について考える。

■本時の概要

目標　読み手の立場に立って、自分の随筆を推敲することができる。

生徒が自分で学び方を選択して、他者と交流したり、生成AIの作成した文章を参考にして、随筆を推敲する。

子供が学び方を選択・決定する場面の設定



子供主体の授業づくりハンドブック　p7

前時までに、作成した随筆を交流し、他者からのアドバイスをもらっています。その上で本時はより読み手に伝わる随筆にするために生成AIを活用しながら推敲します。

＊生成AIを自分の考えを広げたり、深めたりするきっかけとなる他者として、また学習の伴走者として活用する。

生成AIの活用については、教育委員会や保護者の同意を得た上で、指導者が留意点等を指導している。

■学習調整をしている子供の姿

【生徒の振り返りの記述から】

【Ａさんの前時の振り返り】
構成の流れをもっとよくしたいと思った。つながりを意識できるとよい。生成AI を使ってもう少し文章のアドバイスをもらいたいと思った。

Ａさんは構成について課題を感じているな。
具体的にどのように活用するのかは、はっきりとはしていないな。使い方について助言をしよう。生成AIが書いた文章例と比較すると、考えるきっかけになるのではないか。

先生からのアドバイスを踏まえて、生成AIに、私が選んだ情報と伝えたいことを入力して随筆例を書いてもらって比較してみよう。

【Bさんが前時に書いた随筆の一部から】

（略）長かった練習が終わり、いよいよ本番の日を迎えた。練習ではうまくいかなくて諦めそうになった日もあったけれど、その全部がここにつながっているのかもしれない。（略）学園祭期間が終わり、改めて最高な二週間だったと思う。この思い出は二週間では味わえないものだと感じた。みんなで一緒に何かをやりとげる大切さをこのクラスが教えてくれた。

生成AIとのやり取りを通して

【Bさんが清書した随筆の一部から】

（略）長かった練習が終わり、いよいよ本番の日を迎えた。練習でうまくいかずに悔しかった日も、仲間と励まし合った時間も、その全部がここにつながっているのかもしれない。（略）学園祭期間が終わり、改めて最高な二週間だったと思う。この思い出は二週間では味わえないものだと感じた。みんなで喜びを分かち合い、みんなで一緒に何かをやりとげる大切さをこのクラスが教えてくれた。

【Bさんの振り返りの記述から】

事実をただ書くのではなく、感情が自然に伝わったり、伝えたいことが伝わるような文にした。また、五感をいれることで読み手がその瞬間を想像しやすいようにした。
生成AIに表現を聞いたところ、一番最後の文が「この学園祭の出来事で自分が成長した」と書いてあったけれど、自分を成長させてくれたのはクラスのみんなだからこれは選ばなかった。

Point!
生成AIを活用する目的や自分の課題を明確にすることで、生成AIの回答を全て受け入れるのではなく、自分が伝えたい内容との関係性の中で吟味し、よりよい随筆となるように推敲する姿が見られた。

■指導と評価の工夫

①学習課題の明確化と課題解決方法の選択

＊前時の課題を振り返り、生徒それぞれが本時の課題を明確にすることで、学習の目的が明らかになり、生徒が見通しをもって、主体的に取り組むことができる。
＊生徒が課題解決方法（生成AI、教師との対話、教科書の語彙ブック、仲間の作品参照など）を選択することで、生徒一人ひとりが進捗状況に応じた学びの支援を得ることができる。
＊生成AIを活用することで、生徒の考えを広げたり深めたりするきっかけにつなげることができる。

②形成的な評価場面の設定

＊生徒の学習の進捗状況に応じて、学習内容だけでなく、学び方についても支援することで、次の学習の場面につなげることができる。

■成果（○）と課題（▲）

○生成AIを活用することで、個人の課題に応じた文章や表現の比較・検討が容易となった。
▲随筆全文を生成AIに入力し、推敲を行う生徒がいた。どのような課題があるのかを尋ねることも学びの一つの手段となり得るが、より明確な課題意識をもって、生成AIを活用することで、学びが深まると考えられる。

【活用したアプリや機能】ロイロノート、生成AI(Microsoft Copilot)